

入学式告示(令和5年4月)

新入生の皆さん、旭川工業高等専門学校へのご入学おめでとうございます。 本科第一学年新入学生百三十五名、第三学年に編入学する外国人留学生一名、 第四学年に編入学する学生二名、専攻科第一学年新入学生三十四名、合計百七 十二名の新しい学生の皆さんに、学校を代表して心よりお祝いを申し上げます。 また、保護者、ご家族の皆様には、心よりお慶び申し上げますとともに、お子 様を本校の教育に託してくださいましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

はじめに、高専について簡単に説明させていただきます。全国には、北海道から沖縄まで、全部で五十一の国立高専があります。旭川高専に代表される工業系の高専を中心に、商船学科やビジネス学科を備えた高専もいくつかあります。各高専とも、本科と呼ばれる十五歳から始まる五年間の教育課程があり、その上に、二年間の課程から成る専攻科が設置されています。高専は伝統と歴史を持つ高等教育機関であり、旭川高専は、第一期校として創立六十一年目を迎えました。



本科では、まず低学年での理系・文系の基礎的授業科目からスタートし、高学年では専門分野の高度な授業科目へと進んでいきます。通常の高校から大学に至る教育環境では得られない、高度で実践的な技術者を育成する五年間の一貫教育の実現です。このユニークな教育システムは国内のみならず、海外でも高い評価を得ています。

実際に、モンゴルとタイでは、すでに日本の高専をモデルとした、モンゴル高専とタイ高専が設置されています。また、ベトナムでは、将来のベトナム高専の設置に向けて、高専型の技術者教育を始めようとしています。

さて、日本では政府が主導して、ソサエティ5・Oという取組みを行っています。インターネットを中心としたサイバー空間を積極的に活用し、新しい価値やサービスを創出することで、人々に豊かさをもたらす人類史上五番目の社会としての「超スマート社会」を世界に先駆けて実現しようとするものです。原始的な狩猟社会、土地に落ち着いた農耕社会、機械を活用した工業社会、情報を中心とした情報社会に続く、五番目の社会という位置づけです。

入学式告示つづき(1)

このような新しい社会に、科学的、技術的な側面から対応し、社会に貢献できる高度な技術を持った人材を育成することが、高専の教育であり使命です。また、今年度からは起業家精神の養成のためのプログラムを開始し、高専発の起業家の育成を展開していきます。まさに旭川高専は、優れた教育環境により、このような新しい社会に貢献できる人材を育む、日本有数の高専です。

旭川高専は、機械システム工学科、電気情報工学科、システム制御情報工学科、物質化学工学科の四つの学科から成りますが、情報、人工知能、ビッグデータ、IOTなど、ソサエティ5・O時代、つまり、日本が目指す最先端で新しい知識・技術を、どの学科に入学しても共通に学ぶことができるようになります。そして、これらを社会でどのように活用していくかというPBL授業についても、学科を越えて共通に用意しています。数学、英語、国語なども加えた、これら学科共通の授業及び各学科特有の授業を受けることで、今後の日本、あるいは、今後のエンジニアとして重要な、新しくて基盤的な知識と技術



を修得するだけでなく、分野特有の深い知識と技術を修得でき、世の中で求められるエンジニアとして、社会に羽ばたくことができます。ぜひ、夢を持って学業に取り組んでもらいたいと思います。これらの他にも、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ディープラーニングコンテスト、英語プレゼンテーションコンテストなどの取組みもありますので、学業と共に上手く活用し、自己を磨いてください。

また、本校は、ヨーロッパの4つの大学、アジアの4つの大学と1つの高等学校、オセアニアの1つの大学と学術交流協定を結んでいます。これらの海外教育機関と交流することで、皆さんのグローバル性、国際性、英語力を養うことができます。学校は可能な限り、これらの交流に援助を行いますので、与えられた機会をぜひ利用するようにしてください。さて、本科入学生にとって、高専での学校生活は、今までの中学校生活とは違ったものになります。勉強も難しくなりますし、何よりも先生に一方的に教えられるだけでなく、自ら進んで学んでいく姿勢が求められます。

入学式告示つづき(2)

しかし、そのような中でも、授業で分からないこと、あるいは自身が何をしていいか分からないことがあれば、先生方が相談にのってくれます。自分自身、あるいは友達だけでなく、積極的に先生方に聞きに行ってください。きっと、皆さんのお役に立てるはずです。その他、部活、クラス、寮などの学校生活のことで悩みがあれば、何でも皆さんの相談に応じますので、遠慮なく教職員や学生相談室に相談してください。親身でやさしいカウンセラーの方も学校には三人いますので、気軽に訪ねてください。皆さんが困難を克服して成長することが、私たち教職員にとっては何よりの喜びであり、皆さんの学びを全力で支えていきます。

さて、第三学年に編入学する外国人留学生のニコラスさん、ようこそ旭川高 専へ! 新しい地での出発です。母国と日本では、文化も習慣も大きく異なっ ているでしょう。そのため、本校の学生及び教職員とたくさんコミュニケー



ションをとり、早くお互いに理解し合える仲になればと思います。勉強や生活のことなどで困ったことがあれば、遠慮なく 周りの学生や教職員に相談してください。本校では高度な技術者を育てる教育環境を提供します。日本だけでなく、母国に とっても、役立つ知識と技術を学べるはずです。旭川高専で学んだことを活かして、将来、母国に貢献できる立派な人材と なるよう期待しています。もちろん、旭川高専での生活を十分にエンジョイしてください。

第四学年に編入学する学生の皆さん、ようこそ旭川高専へ!新しい学校での出発です。これまでとは、校風も環境も異なっているでしょう。勉強や生活のことなどで困ったことがあれば、遠慮なく周りの学生や教職員に相談し、本校に慣れ親しんでください。

専攻科入学生の皆さん、新たな高専生活の始まりです。高専本科で得た知識、技術、経験をいかんなく発揮してください。 専攻科は、準学士ではなく、学士を目指す研究・教育課程ですが、皆さんには、大学レベルではなく、むしろ大学院の修士 レベルの科学技術力を獲得できるよう、高い望みを持って勉学に励んでもらいたいと思います。研究室の先生の指導の下、

入学式告示つづき(3)

自身の研究テーマについて、コツコツと、しかしながら強い意欲を持って、まい進してください。そして、その成果を学内だけでなく、学外でも発表してください。とくに、学外で発表することが重要です。例え研究成果が小さなものでも、他の大学生、大学院生と同じ土俵に立つことで、自身にとって大きな成長の糧となります。大きな成果を得た場合にはなおさらです。専攻科修了後は、就職する学生、大学院に進学する学生の2つに分かれます。通常の大学卒の学生に比べ、知識も技術も優位に立っているはずですし、またそうなるよう勉強、研究に努めてください。1年間という短い期間です。入学時点で自分の将来を見つめ、計画的に過ごしてください。

新入生全員に申し上げます。この旭川高専で得ることは非常に大きいと思います。社会構造・産業構造が変わろうとしているこの日本全体を、イノベイティブでグローバルな技術者として支え、また、超高齢化・少子化・人口減少という地域の課題を打破し、地域を元気にする起爆剤となるような学生になってくれるよう期待しています。

最後に、新入生の皆さんがこの旭川高専での学生生活を、明るく楽しく、有意義に過ごしていかれること、そして、今日 ここにいる皆さん全員が無事卒業、修了することを心より願いまして、告辞といたします。

> 令和5年4月6日 独立行政法人 国立高等専門学校機構 旭川工業高等専門学校長

万十嵐 敏文

副校長・教務主事からのメッセージ

副校長・教務主事 篁 耕司

新型コロナウイルスによる感染対策も一区切りをむかえ、コロナ禍前の日常が戻りつつあります。これまでのコロナ禍の3年間、学生の皆さんは、学修を止めないことはもちろんのこと、いろいろな制約があるなかで、人類がこれまで経験をしてきたことがない環境でたくましく過ごしてきたことと思います。

今年度から、履修基準等の見直し、特別欠席の廃止、進級基準の緩和、留年時の再履修基準の見直しなど教務関係の規則を大きく変更しました。在校生にとっては最初は戸惑い、混乱もあったかと思います。この変更は数十年ぶりに行ったものですが、学生にとっての基本的な姿勢、考え方は変わっていません。本校としては、学生は『学業が第一であり、カリキュラムに基づいて配置された授業に出席するのが大原則』です。出席して対面で授業を行う成果は、通常授業や実験を含め知識技術的な面だけでなくコミュニケーション力など人と関わる力が大幅に成長していることに表れています。これらの明朗誠実な日々の積み重ねにより旭川高専卒業生が外部の方から高く評価される所以になっています。



また、学生個人の活動・行動をさらに尊重する仕組みの構築を目指して引き続き議論を進めて参ります。今後も社会情勢の変化や学生の多様化に鑑み、安心した学びの環境構築を行っていきます。

さて、最近の大きな話題として半導体企業のラピダスが北海道に最先端の半導体製造工場を建設していることはご存じかと思います。国からの大規模な支援により北海道の産業構造が大きく変化することも予想されています。旭川高専も社会ニーズに合わせた人材を輩出するべく、従来の専門教育、教養教育に加えて、AI・数理データサイエンスのデジタル人材育成、さらに半導体人材育成にも力を入れていきます。

変化の激しい時代ですが、学生および保護者の皆様には、引き続き本校の教育活動にご理解またはご支援賜りますよう何 卒よろしくお願い申し上げます。

副校長・学生主事からのメッセージ

副校長・学生主事 杉本 敬祐

旭川高専は学生の「学校生活」と「将来の進路」に向けて、学内外からサポートできる体制となっています。今年から新たに2つの協力体制が加わりましたので、既存の学生総合支援センターと合わせてご紹介します。

学生総合支援センターは、学生の悩みをカウンセラーに相談することができる「学生相談室」、将来の進路(就職・進学)をサポートする「キャリア形成室」と、合理的配慮を必要とする学生をサポートする「修学支援室」で構成されています。

困っている学生の心のケアは学生相談室のカウンセラー(教員も)がサポートしますが、困りごとの原因が、生活環境 (家庭、友人関係、地域、学校など)にある場合は、学内外の関係機関と連携・調整をし、学生の困りごとをサポートする スクールソーシャルワーカーを今年度から配置しました。

さらに、学生、家庭と学校だけで解決が難しいトラブルについては、警察OBからなるスクールサポーターとも連携し、助言を受けて解決を目指していきます。悩みは誰でも抱えるものですが、ひとりで解決できない場合もあります。困ったと



学生相談室、医務室

きは、ひとりで抱えず、誰かに相談する(できる)ことが人生を生き抜く上で大切なスキルの一つです。卒業後就職を希望する学生は、キャリア形成室が企画するイベント(就職適性検査や企業説明会である「仕事研究セミナー」など)には、積極的に参加してください。就職活動を有利に進めるための取り組みです。一部の企業における採用試験では、就職適性検査のある項目を採用の判断として使っています。また、多くの企業が来校される「仕事研究セミナー」では、ウェブや求人票ではわからない情報を聞き出せるだけでなく、自身をPRし就職活動を有利に進めるチャンスでもあります。5年生になって困らないためにも、学校からのサービスを積極的に活用してください。

副校長・寮務主事からのメッセージ

副校長・寮務主事 堀川 紀孝

現在、明誠寮では留学生を含め道内外から旭川高専に来た約230名の学生が生活しています。 共同で生活することで助け合いつつ、他の人との生活の距離感を身につけることができるのが 寮の特徴ですが、ここ3年は感染対策のため、極力接触を避ける生活を強いられてきました。

今年度に入り、コロナ対策の緩和を受け、日々の交流だけでなく、行事を通した交流が段階的にできるようになってきました。夏の寮祭と冬の新年会は寮生会が中心となって企画しますが、 企画運用した世代が卒業しており、手探り状態で準備を進めています。

昨年途中から新しい国際棟の運用も始まりました。共用部と最大7室の個室からなる、シェアハウス型の居住スペースになっており、まだ一部ですが日本人寮生と留学生が同じユニットで生活しています。また、フランスから3名、タイから2名の短期の留学生が国際棟に滞在しており、7月には水原ハイテク高校との交流事業により10名の学生が数日間、寮に滞在する予定です。





明誠寮 国際棟(右側)



国際棟 居室



国際棟 交流スペース

国際交流センター長からのメッセージ



国際交流センター長 櫻井 靖子

2020年3月、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、フランスの大学で研究中だった本校学生が緊急帰国しました。以来、短期間の海外派遣および留学生受入は、中止またはオンライン交流による代替が続きました。今年2月からようやく、通常の国際交流事業が再開しつつあります。中断期間を経て学生の関心度は高まっており、やはり対面での国際交流でこそ多くの刺激を受けるものだと、改めて感じさせられます。

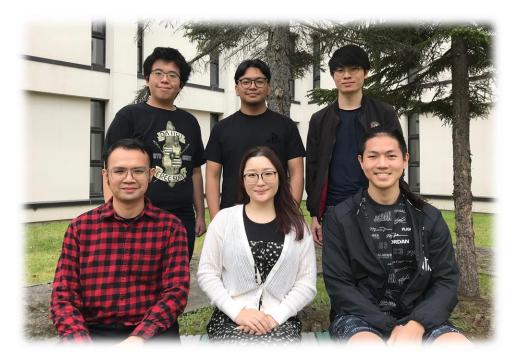
幸い、本科留学生はコロナ禍でも予定通りに入学できました。現在6名の留学生が本科3~5年に在籍し、日本人学生と同じ授業を受け勉学に励んでいます。

国内外で活躍するエンジニアには、さまざまな技術のみならず幅広い国際的視野を身に付けることが求められます。本科留学生との交流や、韓国、タイ、シンガポール、フランスにある各協定校との交流などを通し、学生のみなさんにそのような機会をできるだけ多く提供できればと思います。

物質化学工学科第3学年 留学生 UEMURA CHEN、 NICOLAS YUH 物質化学工学科3年生のニコラスです。ブラジル出身です。一年間東京で日本語を勉強してから旭川工業高等専門学校に入学しました。

まだ3ヶ月間がたっていないとしても、この高専の学生生活は有意義だと思います。なぜかというと、日本人学生と一緒に学んでから、ブラジルと日本の文化の違いを分かるようになりました。また、先生の教え方でも違いがありました。興味深いと思います。

ここから何年間日本に住むになるかはっきりわかりませんが、 自分の将来から見ると、きっと良い経験になるはずだと思います。



(右前が二コラスさんです)

本科第1学年担任団からのメッセージ



機械システム工学科学級担任

阿羅 功也

電気情報工学科学級担任

冨永 徳雄

機械システム工学科1年(1M)担任の阿羅です。 1年生全クラスの健康体育の授業を担当しています。 1 Mは30名と少人数ですが、その分学生一人一人 にしっかりと目を向けサポートしていきたいと思い ます。入学してからは行事である体育祭に学級閉鎖 にて参加できなかったことは残念ですが、気落ちせ ずに学習に励む様子が伺えます。これからさらに輪 を広げ活動してくれることでしょう。今年度からは コロナでの制約も少しずつ解消されてきました。中 学時代にできなかったことを機会があれば高専にて チャレンジしてほしいと思います。メリハリのある 学校生活に!

今年度の電気情報工学科第1学年は、男子30名、 女子4名の計34名でスタートしました。専門分野 の特性からなのか、いろいろな個性をもった学生 が集まっていますが、クラス役員を決めるときな どは、何人もの学生が積極的に立候補するなど、 自主的に動く学生がたくさんいます。学生間によ りよいクラスをつくろうという意識が強く感じら れるなど、最近にしてはちょっと珍しいかなと思 います。この34名がこれから5年間、学生生活を ともに過ごし、全員が揃って5年後に卒業できる ことを願っています。



システム制御情報工学科学級担任

安藤 陽平

"将来の夢"はつねに暫定的であるほかない―― 昨日の野球少年が明日の哲学者を目指す、というよ うに。その"変身"を助けるのが学校での勉強、つ まり "自分ひとりでは学ぼうとしなかったであろう、 興味関心のない事柄を学んだ経験、なのです。外国 語にまったく触れてこなかった人が、ある日突然英 語に興味をもつ幸福と困難を想像してみてください。 不意に訪れる変身の機会に備え、これからの五年間 で幅広く知識と理解を積み重ねていきましょう。

物質化学工学科学級担任

本荘 忠大

1年物質化学工学科は、男子12名、女子23名 からなるクラスです。新入生研修や体育大会では、 お互いに協力し合い、すばらしい団結力を見せて くれる場面もありました。これからの5年間で、 「休まない」、「遅れない」、「諦めない」を モットーに、充実した学校生活を送りましょう。 決して安易な道に逸れないように、こつこつと粘 り強く努力を継続してください。応援しています。





本科第3学年担任団からのメッセージ



機械システム工学科学級担任

福澤修一朗

M担任を拝命して三ヶ月目に入り、ようやくクラスの雰囲気・様子が分かってきました。また、数年ぶりに通常開始された体育大会では、日常生活からは分からない、行動力や団結力を見せていただき、とても喜ばしく思っています。3Mの皆さんは、一気に専門科目の授業が増えて戸惑っている部分もあるかと思いますが、早く3年生の生活に慣れて、まだまだ終息しない新型コロナに気を付けつつも、学校生活を存分に楽しんでいただきたいと思います。

電気情報工学科学級担任

平 智幸

AIを活用した新しいサービスや北海道にできる 最先端の半導体工場が注目を集めており、電気・ 電子・情報を学ぶ人への期待が高まっています。 いつ何が起こるかわからない世の中で生き抜くた め、高専で身に着けられる力を伸ばしつつ、様々 なテクノロジーに興味をもち、自ら学び、周囲と 協力しながら取り組む力を身に着けていって欲し いと思っています。ぜひ時間を有効に使っている いろなことにチャレンジしてみてください。





システム制御情報工学科学級担任 佐竹 利文

今年度の3年システム制御情報工学科は、在籍45名と教室のスペース的に余裕のない中で新学期の生活を始めています。高専と言う学校の特徴なのかシステム制御情報という学科の特徴なのか、例年通りクラスには元気な学生から、静かな学生まで性格的に?様々な学生たちがいます。しかしながら、この3年生を乗り越えることができ、4年生に進級していくと、将来の方向性が見えてきます。学生たちには、今年1年間将来を見据えて勉学を第一に様々なモノ、事や社会を見て聞いて自分の未来の姿のVer、1を描いてくれることを期待しています。

物質化学工学科学級担任

松浦 裕志

3年生になると専門の授業の数が増え、これまでよりも難しいと感じることが多いかもしれません。ぜひ皆で協力して卒業まで一緒に進んでいければと思います。同じ学年の高校生は進路実現へ向けて様々な活動をしています。高専生の皆さんは少し猶予がありますが、進路を意識して自主的に行動ができる学生になってもらいたいと思います。保護者の皆様におかれましては様々な場面でご協力を賜ることがあるかと思いますがよろしくお願いいたします。



FANCT vol.138-Jun.



独立行政法人 国立高等専門学校機構 旭川工業高等専門学校

〒071-8142 旭川市春光台2条2丁目1-6

TEL: 0166-55-8000 (代表)

FAX: 0166-55-8082

URL: https://www.asahikawa-nct.ac.jp/

学校だよりに掲載されている記事・写真などは、学校だよりへの掲載目的以外の利用および外部への提供は一切行いません。また、個人情報に関するお問い合わせは、上記担当までご連絡ください。掲載の記事・写真・イラストなどのコピー・転写等の2次利用は固くお断りいたします。